

オープン カレッジ

稲垣 一之氏

名古屋市立大学大学院
経済学研究科准教授



円相場が1円変動するだけで年間の営業利益が数億円単位で変動する企業がある、という調査結果があります。輸出と輸入どちらを重視するかで円相場に対する評価は異なるか……

いますが、いずれにしても、今後の円高に同意する人はいるでしょうが、1ドル＝67円は、定期的に「ビッグマックは、マクドナルドのビッグマックの価格は、米国で4・62ドル、日本で3・10円です。両者の比は1.67であるため、ビッグマックで測ったドル円相場（＝ビッグマック指数）GBのWi-Fiモデルは、米国

円相場の分析と理論と実証

「指数」という指標を報告しています。今年1月の報告によれば、マクドナルドのビッグマックの価格は、米国で4・62ドル、日本で3・10円です。両者の比は1.67であるため、ビッグマックで測ったドル円相場（＝ビッグマック指数）GBのWi-Fiモデルは、米国

データの妥当性理解が重要

799ドル、日本で78800円（税別）です。したがって、iPad Airで測ったドル円相場は、1ドル＝98円となります。今後の円高を示唆する点では先ほどと同様の結果ですが、円相場の将来の水準という点では、より実現性が高いように思われます。両者の違いは何でしょうか。

同一の財が販売されている場合、その財の購入は、価格が安いほうの市場で増えるでしょう。しかしながら、1ドル程度安いという理由で、わざわざ米国から日本へビッグマックを買いに来る人はいないはずで、その一方、円安等の影響により訪日外国人旅行者が増え、日本の家電量販店で「自国よりも安いから」という理由で買い物をする姿はしばしば見かけられます。購買力平価説が成立する条件により近い財がiPad Airであるならば、この財で円相場の適正水準を測った方が妥当でしょう。

でも、その背後にある理論や使用するデータの妥当性を理解することは、こうすることでは、経済予測などの分析結果を正しく評価することが出来ず、例えば上述の円相場分析を新たに別の財で行い、自分で結果を整理し解釈することは、良いエクササイズにはなりません。

重要なことは、どんな分析